

モモの台木品種「オキナワ」を用いることによる休眠覚醒のための低温遭遇時間短縮

[要約] 台木に「オキナワ」を用いた「日川白鳳」及び「あかつき」は7.2 以下の低温遭遇時間が 600時間でも共台より開花速度が早く開花率も高く、早期加温栽培が可能である。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成11年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

モモの早期出荷のためにはできるだけ早い時期に加温した方がよいが、あまり早い時期に加温すると開花不良や不揃いを生じたり、開花までの日数が多く必要となる。そこで、休眠覚醒のための低温要求量が少ない台木品種「オキナワ」を用いた場合の穂品種の開花速度及び開花率を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

自発休眠が覚醒していない 7.2 以下の低温遭遇時間 600時間での「日川白鳳」、「あかつき」の「オキナワ」台は共台より開花時間が早く、開花率も高い(図1)。

自発休眠がほぼ覚醒した 7.2 以下の低温遭遇時間 800時間での「日川白鳳」、「あかつき」の「オキナワ」台は共台より開花時間が早く、開花率も高い(図2)。

開花時間、開花率は台木に「オキナワ」を用いた「日川白鳳」、「あかつき」の品種間差を認めない。

以上の結果から、台木「オキナワ」を用いると共台より開花時間は早く、開花率は高くなり、低温遭遇時間の短縮による早期加温栽培が可能である。

[成果の活用面・留意点]

早期加温栽培で活用できる。

果実形質及び品質は確認できていない。

[具体的データ]

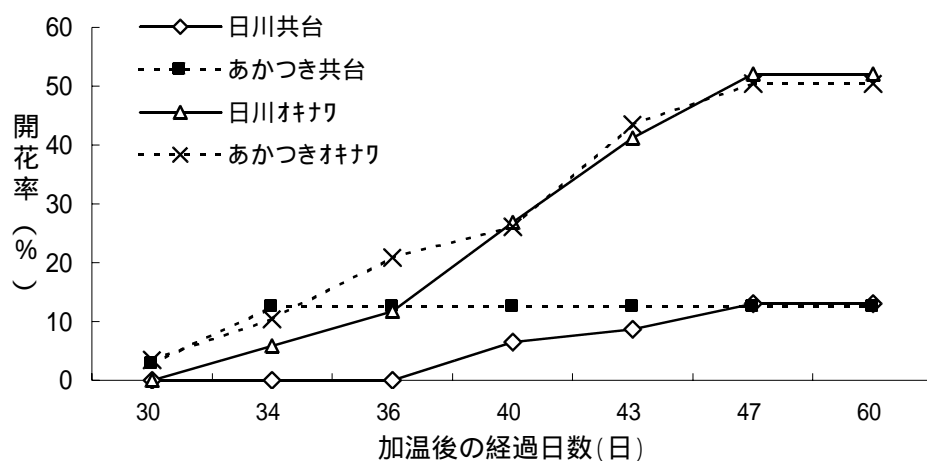


図1 台木と穂品種の組み合わせによる開花率
(7.2 以下の低温遭遇時間600時間)

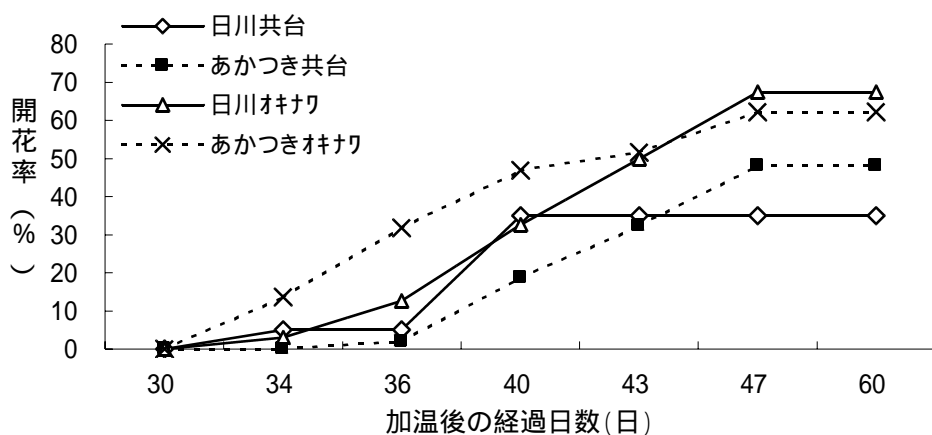


図2 台木と穂品種の組み合わせによる開花率
(7.2 以下の低温遭遇時間800時間)

[その他]

研究課題名：施設落葉果樹の新作型・栽培法の開発

予算区分：県単

研究期間：平成11年度（平成9～13年）

研究担当者：田中 実、森田 昭、林田 誠剛

既発表論文等：なし